



アメリカ武徳祭の成果と 不滅の武徳精神

濱田 鉄心

アメリカでの半世紀に亘る武道歴史は正に光陰矢の如しであったが、単身で貨物船の底船に乗り込んで渡米したころの記憶が今も鮮明に思い出される。

バージニア州の大学に武道道場を設置して日本の伝統武道を教え始めたのは五十年前の厳しい夏の事であった。当時は日米関係が現在とは異なり日本国の独立から間もない世情であったため、まだまだ従属的な感覚が強く、米国社会の中では敗戦国日本への風当たりが厳しかったのは言うまでもない。しかしアメリカの若者が熱烈に臨んだのは常に強くなる事であった。彼らはアメリカの世界観や価値観を世界に誇示していくためには何よりも強いアメリカであることに固執していた。そういう意味で武術や武道に対する関心はひとときの高まりを持つていた。さらに極端な銃社会が反映するように、人的被害犯罪件数も世界に比類なき形で存在していた事を考えると日常護身術としての必要性も多大であった。大学での講義の傍ら武道道場での厳しい稽古と凄まじい汗と血みどろの歴史が五十年前に始まり、今日に至った。大学で大日本武徳会武心館道場が設置された後、バージニア支部、そしてアメリカ支部となり、さらに国際支部と変革し、現在の国際部と再構築され海外四十五カ国の会員が数千名に発展したのは奇跡としか